

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100708
法人名	医療法人 秀愛会
事業所名	グループホーム 清滝
所在地	鹿児島県鹿児島市西千石町13番30号 (電話) 099-213-9950
自己評価作成日	令和3年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年6月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●尊厳をもってその人らしい暮らしができるようにお手伝いします  
●ゆったりと暮らせる環境を一緒に作って行きます  
●地域の一員としての橋渡しを行います。

を理念に掲げ、ご利用者、ご家族との関係性を大切にしている。行事もご家族参加型の行事に取り組み、家族会を開催してご利用者の日々の暮らしを知って頂いたり、ご要望や相談しやすい環境作りに取り組んでいる。また鹿児島市の中心に位置し交通の便にも恵まれているため、おはら祭りやハンヤ、地域小学校での行事など外出しやすい環境である。行事なども事業所(通所介護事業所やサービス付高齢者専用賃貸住宅)と合同での行事やレクリエーションなどの交流を行っている。また沖野循環器科病院が併設であり、定期的地震や緊急時にも対応ができ安心して生活が出来るように支援している。外部評価に参加したり、内部研修開催し年間計画を立ててケアの質向上に向けて努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、鹿児島市の市街地に立地し、母体医療機関と同建物のビルの6～7階に開設されている。母体医療機関とは2階と5階で連絡しており、車椅子で無理なく月2回の受診ができる。緊急時を含めた24時間の医療連携及び訪問看護師による健康チェックが行われ、本人・家族の安心となっている。

・管理者・職員は、利用者と家族がズーム面会や電話・手紙での交流で関係を継続できるよう支援すると共に、利用者がこれまで大事にしてきた知人等との年賀状・暑中見舞い・電話での交流支援にも取り組んでいる。

・管理者・職員は、利用者の力を活かした家事動作や役割への取り組みを支援し、本人のペースを第一にその人らしい生活ができるよう残存機能の維持と生活への意欲の保持を図っている。

・管理者は、コロナ禍の為、外部研修受講等が制限されている中で、内部研修に力を入れ職員のレベル維持・向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各階に当施設の基本理念を掲示し、年に一度「理念」の勉強会を開催し、見直しや振り返りを行っている。また、定期的なカンファレンスにても振り返りを行っている。	開設時に作成した理念をユニットの玄関に掲示し、パンフレットにも記載している。勉強会等で、理念の見直しとケアの振り返りを行い、日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	現在コロナ禍の状況にあり、地域との交流が難しいが、以前は近くの小学校の行事や地域の行事に参加したりしていた。	自治会に加入しているが、コロナ禍の為、地域行事への参加は自粛している。住民との交流は困難な状況であるが、散歩時の挨拶や地域代表と日常的に情報提供を得たり、お困りごとの相談を受ける等、交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	当施設でも、認知症に対する支援の方法や理解の自己研鑽を行っており、研修の参加も行い、勉強会等で反映を行っている。また見学時や問い合わせ時にご説明や提案等させていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、資料にて報告等を行っている。その中で定期的な報告、身体拘束適正化委員会にての報告、委員会メンバーからのご意見をいただき、サービス向上に努めている。	2ヶ月毎に、書面で運営推進会議を開催し、事業所活動状況や入居者の状態・サービス内容を持参または送付している。委員からは、身体拘束についての質問があり、具体的な事業所の取り組みを周知する良い機会となった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	法改正や資料等作成において不明な点は発生した際は、電話連絡にて相談したり、直接市役所にお伺いし、当施設の実情も話しながら、相談を行っている。今後も積極的に協力関係を築いていきたい。	市の担当者とは、電話や出向いで利用者の暮らしぶりやケアの様子を伝え助言をもらっている。事故報告や相談等を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。市の研修会はズーム研修を含めて参加し、情報収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回、身体拘束の勉強会を行っており、また日頃の支援の中でも言動等が身体拘束にならないか、職員同士で話し合ったり、振り返りを行っている。	2ヶ月毎の委員会及び年2回の研修会を実施している。「拘束のない支援」について、言葉遣いも含め、外出希望または外出拒否の利用者に応じた声かけや支援を行い、常に職員で話し合い、振り返りながら利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、年に2回、施設内での勉強会を行っている。また、鹿児島市での研修も参加したり、職員へも周知し、学ぶ機会、振り返りの機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についても学ぶ機会を持ち、支援に向けた取り組みができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前にあたり、本人、ご家族様には見学や、料金の説明、持ち込み品等の説明の機会を持ち、また、担当ケアマネ等も情とも報共有し、不安のないように説明を行っている。また、改正の際も書面にて説明、同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご本人、ご家族様からのご意見、ご要望にお応えできるよう、施設内だけでなく、関係機関のご案内も行っている。また、家族会の開催も再度検討している。	利用者には日常の会話の中で要望等をきいており、家族には電話やズーム面会時に要望等を聞き、フロア会議で話し合い、運営に活かすよう努めている。ワクチン接種後の面会希望については、法人内で検討することを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にスタッフカンファレンスや職員会議を開催し、意見交換、要望を聞く機会を設けている他、面談を行い、運営面やケア、働く環境等のご要望を聞かせていただき、対応や反映につなげている。また、日ごろからのコミュニケーションも必要と考える。	定期的な会議やカンファレンス・個別面談で、職員の意見等を聞く機会を設け、意見や要望が言いやすい環境作りを心掛けている。受診支援のあり方、コロナ禍での小学校・地域交流をどのようにすべきか模索中である。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人代表にて給与水準、労働時間の管理を行っている。また、実績や職員個々に対して、やりがいにつなげられるよう、人事考査等の導入も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に関して、職員自身が学びたいという思いを大切にし、研修の周知、掲示を行っている。今回、実践者研修へ参加希望あり、研修参加を行った。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流に関して、グループホーム協議会や、地域包括によるグループホーム同士の交流会、勉強会への働きかけを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談、情報収集、またご家族からの意向も事前に確認し、介護支援計画書を元に支援を行っている。利用開始後も日頃からの関係性が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも本人への意向を確認し、サービス利用に向けたヒヤリングや関係作りに務めている。またご家族にとって聞きやすい環境作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援計画書を作成するにあたり、本人様はグループホームで生活する上で、長期目標にしたいこと、日ごろどのように生活し、不安を取り除けるか等、話の中や面談等で見極められるよう努めている。また意向は変わるものなので柔軟に対応できるように努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの生活の主体は利用者様であり、職員での視点、支援になっていないか、日ごろからも意見交換行い、ケアの振り返りや見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の関係性を大切に、立ち入り過ぎず、本人様が大切にしてきた関係性を崩さないように努めている。ご家族からもグループホームで生活する上での本人へなにを望むか等、アセスメントを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで過ごされた環境においての、多方面にわたる要因（仕事、友人関係、物）が関係性が崩れないように努めている。現在は面会は難しいが、電話やFAXでのやり取り、手紙でのやりとり、また物品に関しても持ちこめる物をもってきていただいている。	家族とのズーム面会や差し入れ、電話・手紙での交流を支援し、事業所からも広報誌や電話での近況報告を行って関係が途切れないように努めている。知人等との暑中見舞い・年賀状等の交流にも取り組んでいる。花束や洋服の持ち込み等を推進し、訪問しやすいように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での関係性を見極めをしっかりと行い、時に職員仲介にての関係性作りに務めている。孤立状態にはならないように、支援の内容もその方によって変え、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もグループホームでの関係性が継続できるように支援に努めている。お手紙でのやり取りや、相談、来訪に応じている。親戚の方のご紹介等あり、大変ありがたく、今後も関係性を継続できるように支援に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いや意向、また、意思の確認が困難な場合はご家族様へ意向の確認を行い、ケアに努めている。その際、介護者やケアする側の思いが先に立たないように、カンファ等でも努めている。	本人の思いを、日常の個別ケア時や夜間等の会話から把握している。表出が困難な場合は、家族や入居前の関係者等から情報を得て、本人の思いを推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の生活歴等も考慮し、急激な環境変化にならない様、支援する際は気を付けている。またご家族間、兄弟間での関係性も継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活していただくにあたり、グループホームでの生活リズムの再構築も支援内容に入れているが、個々の生活リズムが急激に変わらない様、本人様の過ごし方の把握の観察、見極めを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一番は本人様の意向を大切に、意思決定が困難な際はご家族様やその方を取り巻く環境要因よりしっかりと情報収集、また共有し、グループホーム間でも各種分野にて連携をもちながら、介護計の作成を行い、変化にも対応できるようにしている。	本人・家族の意向を基に、日頃の職員の意見及び情報を参考に介護計画を作成している。部分的な見直しはケアを実施する中で行い、6ヶ月に1回モニタリングを実施し、計画の見直しを6ヶ月毎及び状況変化時に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の経過記録においても単一化にならないよう、その日において利用者の状態、表情の変化に気づき、記録記載するように努めている。また変化に関しては、日々の申し送り以外でもスタッフ間でノートの活用等行いながら介護計画の見直しに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>介護計画においても、定期的な見直しではなく、本人、ご家族の意向や状態も日々変わるものとして柔軟に対応できるよう努め、またその時に応じたサービスの提供や案内を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との地域資源の把握を行い、地域の一員として支えられていく環境作りに務めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、ご家族の意向に応じて、かかりつけ医との関係性を築いている。またセカンドオピニオンにも対応し、本人様への最善な支援ができるよう努めている。</p>	<p>契約時に本人・家族の希望を確認し、協力医がかかりつけ医となっている。緊急時を含めた24時間の医療連携と週1回の訪問看護で適切な医療を支援している。他科受診は紹介状を出し家族対応である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にて1週間に1回の頻度にて状態確認をしていただき、また日常においても相談しやすい環境である。訪問看護より、主治医や外来看護師への情報提供も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関との連携に努め、情報共有や交換を行い、退院支援に向けた支援を行っている。また状態に応じて、主治医へも今後の回復の見込みも含め、状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針について、入所契約の際に本人やご家族の意向を伺い、見取り介護の開始の際は、介護支援計画の見直し、また開始後も意向は変わるものとして柔軟な対応に努めている。今回、重度化の指針の見直しを行っている。	契約時に指針で説明し同意書を得られている。状況変化を日頃から家族に説明し、意向確認をしている。重度化の場合、家族の意向に沿って主治医・訪問看護師・職員のチームで支援に取り組む、看取り介護の事例がある。今年度、法改正に伴う指針の見直しを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、勉強会を行い、実践に生かしている。緊急時は平常心を失うこともあるため、夜勤中においては、別の階の夜勤者にも相談するなどの冷静な対応もできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルの作成、備蓄や非常食の確保、また、避難経路の確認も定期的な消防訓練に合わせ、施設内でも備蓄期限の確認等も行っている。</p>	<p>法人全体で年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、消防署の立ち会いが1回ある。自主訓練時は業者が機器点検を行っている。避難場所への安全な移動等へ法人職員の応援がある。非常用の備蓄は、5日分の水・レトルト食品・缶詰・乾麺等を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活の主体は利用者様であり、スタッフも入所後だけの関係性ではなく、人として、その方の今までの背景を尊重した声掛けやプライバシーの確保に努めている。特に排泄や入浴時等も環境時における動線の配慮を行っている。	個人の尊重やプライバシーの保護について勉強会や会議を実施している。言葉遣いやさん付けでの呼びかけ、入室・個別ケア開始時の声掛けをしている。排泄介助時や入浴の同性介助等、羞恥心にも配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定においても言葉かけに工夫し、二者択一法や好きな色、季節感、匂い等、五感も用いて自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いに寄り添い、傾聴し、何を望まれているのか、その方のペースにあわせた支援ができるように努めている。利用者様の思いが尊重できることばかけにも気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者様の、その方の思いを大切にし、季節感等、判断が困難な際はお手伝いするが、その方が好きな服の色、タイプ、またお化粧方法等も二者択一等できるよう言葉かけにも工夫しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様その方の能力が引き出せるよう、職員も見極めを行い、一緒に料理の準備、食事、片付けができるよう支援を行っている。実際に参加が難しい方も何か食べたいものは無いか等お伺いし、参加していただいている。もやしの寝取り、包丁を使った家事動作、配膳、お盆ふき、ホットプレートと使った調理など。	職員で献立を作成し、利用者の力量に応じて一緒に下ごしらえや準備・調理を行っている。誕生日のケーキや季節の行事食・保存食作りなど、季節を感じ、楽しんでもらえるように工夫したり、個々人に合わせた食形態にして食事が楽しいものとなるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理や脱水、塩分、水分調整等、主治医のみでなく、管理栄養士の助言も頂きながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医の歯科医院にて定期的な口腔状態、また日ごとの口腔トラブル等に対応していただき、また、口腔ケアだけでなく、その方にあった食事支援（姿勢）にも気を付けて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下剤に頼りすぎない支援に努め、その方に応じた排泄パターンや体重の増減にも気を付けて支援を行っている。個人個人にて排泄チェックを付け、下剤の調整や排泄パターンの確認を行っている。	個々の排泄パターンに応じた声掛けや適切な排泄用品の使用等で排泄の失敗をなくすように取り組んでおり、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を優先して、パットを調整したりポータブルトイレも使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様、栄養士にも助言いただき、食事支援、またトロミ剤も使用時は過多にならない様にきをつけている。イレウスの利用者様へは食事形態の変更（繊維物のとりすぎや根菜類に気を付け）その方にあった内容での提供を行っていた。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その方に合わせた入浴内容にし、浴槽に入りたい思いがある利用者様は2人介助にて入っていただいたり、また血圧低下がある方は午後から入っていただいたりと、個別支援内容へ変え、支援を行っていた。	週2回午前中を基本に入浴を実施している。曜日、湯温など利用者の希望を確認し、必要時の2人介助や希望での同性介助で支援している。嫌がる場合は、日時・順番・職員の交替・声掛け等の工夫で入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の際、本人様の五感が刺激しすぎる事のないように、室温、明かり、寝具の調整等行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員自身も内服薬の理解に努め、作用や副作用、薬剤師に問い合わせを行い、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や楽しみごと、また生活される中でも興味のあること、傾聴等行い、その方にあった支援ができるよう努めている。テレビの内容や、運動、家事動作など、その方が今までされてきた生活歴にも注目し、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、コロナ禍の状況において希望に沿った支援ができていないが、今後、ご家族にもご協力いただき、外出支援等行っていきたい。	天候の良い日は、近距離の散歩や近隣公園・屋上の藤の花見物に出かけている。外出は制限しており、コロナ収束後は年間計画の外出支援に取り組む予定である。家族との墓参りや外泊・外食等も、コロナ禍が収まれば支援に繋げる計画である。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在コロナ禍の状況において一緒に買い物に行ったり、支援できていないが、以前は市場等、外出時に行き、買い物なども行っていた。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在、面会制限もかかっている状態にて、中々ご家族に会えない状況が続いており、ZOOMを行い、しようしての面会、手紙、FAX, また電話でのやり取りを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにおいて、環境整備には気を付け、過ごしやすいような環境作りに努めている。清潔感、匂い、空調、明かりなど。また掲示物も季節間のある塗り絵や掲示物など掲示して工夫を行っている。	リビングは明るく、十分な換気を行い換気や室温・湿度調整をこまめに行い、空気清浄機やエアコンを使用し過ごしやすい室内環境に調整している。動線を考慮した家具の配置や季節感のある作品の飾り付けで、利用者が安全にくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の過ごしやすいよう、関配置や部屋の場所など工夫を行っている。その状況に合わせて、職員は介入しやすい位置だったり、動線の確保等にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってなじみのあるもの、思い入れのあるものは家具なども継続して使っただけのように工夫している（ダンス、家具、など）	居室にはダンス・エアコン・ベッドがあり、本人がこれまで使っていたテレビ・仏壇・寝具・位牌・写真・アルバム等を身近に置いて、落ち着いて過ごせるようにしている。ハンガーに衣服やバッグ・帽子を掛け、居心地よく過ごせるようしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を掲げ、本人様ができる事、手伝いを必要としていること、支援過多、また孤立しないような支援ができるように努め、また職員同士でも日ごろから情報共有、また認知症にたいしての理解、自己研鑽を行い支援に努めている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1 ほぼ全ての家族と
		<input checked="" type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	3 家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1 ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	3 たまに
		<input checked="" type="radio"/>	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/>	1 大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	2 少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	3 あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない